

☆「新しい戦前」

☆昨年暮れのテレビ番組「徹子の部屋」で、タモリさんが「来年はどんな年になりますか？」と質問されて答えたのがこの言葉です。何のことでしょうか？

(一) 無関心、沈黙、無反応、ぼんやり

◆タモリさんは今の日本の政治社会状況が戦争前夜の様だという意味で言ったのですが、これに対する識者の共通した指摘は日本社会を覆っている「無関心、沈黙、無反応、ぼんやり」です。

◆そのうち内田樹^{たつる}神戸大学名誉教授は「(国は)明らかに『戦争が出来る』方向にシフトした。にもかかわらず・・・どうしてこうも無関心でいられるのか。政策転換にまるで反応しない日本人の方がむしろ深刻な問題だと思います」と述べています。(内田樹・白井聡著「新しい戦前」朝日新書2023・8月刊、p.9)

◆アメリカのキング牧師も生前「最も悲劇的なのは、悪人の辛辣な言葉や暴力ではなく、善人たちの恐ろしいまでの沈黙と無関心である」と言いました。

(二) この国民の姿がもたらす日本の未来

◆この「無関心、沈黙、無反応、ぼんやり」暮らす国民の姿は、実は戦争の出来る国にしたい政府にとって、最も好ましい姿です。この姿は、権力者のおいしい栄養源なのです。

◆フランク・パブロフという人が書いた「茶色の朝」という童話があります。茶色の朝はナチを連想させるものですが、人々が無関心でぼんやり暮らしていたら、そのような朝が来てしまったという物語です。

◆沖縄で非暴力で土地返還を戦った阿波根昌鴻さん^{あはこんしやうこう}も「平和の最大の敵は無関心である」と言いました。

(三) 無関心をやめよう、声を上げよう、選挙に行こう

◆コロナ、猛暑などで国民が思考停止している間、クーラーの効いた部屋で権力者は、武力で国を守る準備に知恵を絞っています。武力行使で戦争になったら、戦争にかり出されるのは庶民です。

◆そうならないために、無関心をやめよう。おかしいと思ったら声を上げよう。戦争にならないようふさわしい人を選ぶため選挙に行こう！

☆私たち浜松市憲法を守る会の考えは「武力で平和はつくれない、非軍備、戦争放棄を謳う日本国憲法こそ平和への道」だということです。

二〇二三年九月十日 (日) 護憲平和行進 (通算679回目)
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



日本国憲法 第二章 戦争の放棄〔戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認〕

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、
国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を
解決する手段としては、永久にこれを放棄する。